

東日本大震災 対策本部情報

75号

2011/04/23

19:00現在

水戸地本原ノ町支部 組合員・家族の安全と

生活基盤の確立に向けて支部集会を開催！

原ノ町支部のすべての職場は、福島第一原子力発電所から50^キ圏内に位置し、常磐線も四ツ倉～亘理間は復旧の目処が立たず、職場も閉鎖されたままとなっています。また、多くの組合員も、津波の被災と原発事故によって、県内外で避難生活を余儀なくされています。

支部は30^キ圏内にありますが、原町在住者や周辺に避難している役員・組合員が支部に集まり、組合員・家族の避難先や支援物資を届けるために組合員と連絡を取り合っています。そんな中、会社が電話で転勤希望や転居希望の聞き取りしていることが明らかになり、在住者を中心に集会を開催しました。

参加した組合員からは、鉄道の復旧の見込みがないとはいえ「いきなり電話で聞かれても応えられない」「子どもの学校、家族の仕事の関係があり直ぐに転居はできない」「家族がばらばらに避難している状況ですぐには判断できない」など涙ながらに状況を語られ不安の声が出されています。

しかし、現実には原発から20^キ圏内は「警戒区域」30^キ圏内は屋内待避区域となり、

収束の見込みは立たない中で、組合員・家族の安全を考え、生活の基盤を確立していかなければなりません。

支部や地本は、必ず原ノ町地区に戻ってきたいという組合員の声をしっかりと受け止め、避難先などで地域集会などを開催し、全組合員と意見交換し、組合員の要求に基づいて会社と議論していくことを確認しました。



J R東労組